

## (郷土)北野小学校

3年 大好き北野の町 やさしさいっぱい3年生

4月～2月 70時間

### 1 ねらい

- ・ 北野学区探検を通して、「新たな発見」を大切にするとともに自分の課題として追究できる内容を選択することができるようにする。(計画力)
- ・ 北野の町で見つけた場所や人について、調べる目的や方法を決め、地域の人々にインタビューしたり、本などから進んで調べたりする活動を通して、オリジナルマップを作ることができるようにする。(役割把握力・調査表現力)
- ・ 調べたことを伝えるために、北野八景の絵葉書を作り、聞き手に分かりやすい言葉を選んだり、伝わるような話し方でまとめたりすることができるようにする。(コミュニケーション力)
- ・ 北野八景の絵葉書にし、発表会をして発信することにより地域を見つめ、「北野大好き」という思いを膨らませることができるようにする。(選択力・追求力)

### 2 実践の実際

(1) ぼく・わたしの「北野一番」から課題作りを

社会科学習で「学校のまわりの様子」を学習したとき、子供たちの中から、「ぼくの家からちょっと行ったところは、豊田市だよ。」「この道をずっと行くと、お父さんの働く工場があるんだよ。」「畔北公園には、わたしの大好きな木があって、そこで休むと涼しいよ。」という声があった。もっといろいろな所へ探検してみたいという声もあったので話し合い、市境のある学区の端まで探検することにした。

そこで、平針街道・環状線などの3本の道路を中心に学区探検をした。探検をしていく中で、自分の北野一番を見つけていった。それを右のようなカードに書き、下記のように様々な場所を発表していった。



(子どもたちの北野一番)

北野廃寺・報恩寺・北野神社・畔北公園・神明の森公園・小針公園・りんご公園・新公園  
子ども家・市民ホーム・三菱自動車工業・フタバ産業・枡塚味噌・マルヘイ半ペン  
セブンイレブン・ローソン・サンクス・ミニストップ・田んぼや畑・北野保育園・矢作川

3年生になって地図の学習をしたことと考え合わせ、子どもたちに、「オリジナルマップを作ろう。」と呼びかけた。項目別の独自の地図作りという課題設定に、子供たちは戸惑いを持ち、もっと調べたいという思いを十分に引き出すことができなかった。その原因として、市の農産物の地図を提示したが、子供がしっかりと「オリジナルマップ」の意味を理解するのに適さなかった。もっと、身近な学区の中の地図に落としていく作業を見せていった方が、理解させやすかったのではと考える。

(2) 一人ひとりの調べたことを「オリジナルマップ」に

個々に持った課題を自分の家の近くで、夏休みなどに実際に調べることにした。調べ方を学ぶために、北野の一番有名な「北野廃寺」について調べることにした。

北野廃寺に詳しい講師の先生を招待し、話を聞いてから、実際に見学をした。子どもたちは、廃寺で塔の柱の跡の直径を測った



り、金堂跡の規則正しく並んでいる敷石を見たりした。今まで、気がつかなかったことを、事前に話を聞いていたからこそ、進んで調べることができた。

調査の仕方を知った子どもたちは、休み明け、調べた課題を右の資料のように持ってきた。「家の人にいっしょに行ってもらって、学区中古いものを探せて楽しかったよ。」「わたしの家の近くは、10以上も自動販売機があってびっくりしたよ。」という声が聞かれた。これをもとに、話し合っ9項目を7つの地図にしていった。

- |            |                      |        |
|------------|----------------------|--------|
| ①北野の自然     | ②北野の古いもの（神社・寺・お地蔵さん） |        |
| ③北野にある工場   | ④北野にあるお店             | ⑤北野の病院 |
| ⑥いっぱいある駐車場 | ⑦たくさんある自動販売機         |        |
| ⑧北野の遊び場    | ⑨北野の工事               |        |



### (3) オリジナルマップの発表から

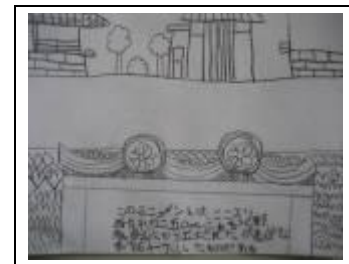
地図にしたものをもとに、地図の中に分かったことやコメントを書き入れていった。それをもとに、発表をしていった。発表後の話し合いで、「言葉と地図のみであったので、話していることが分かりにくい。」「調べたことをもっと付け足したい。」という意見が出た。そこで、反省をもとに発表する場所ももう一度見直し、今度は、家の人に向けて発表することにした。



学校開放日を利用して、先回の発表の反省を生かし、地図だけでなく、子供は写真やビデオなどを撮ってきて、分かりやすくまとめて発表していった。前より分かりやすくまとめ、発表することができた。特に、しっかり資料を集めたグループは、自信を持って発表できた。また、新しく学校の近くに公園ができるニュースは、より子供たちに期待感を持たせた。

### (4) 地域からの発信を

その後の話し合いの中で、子供から、「おばあちゃんに、北野がどんな町かを教えてあげたい。」という声があった。そこで、北野の絵葉書を描いて、北野の良さを知らせることにした。子供たちは、それぞれに自分の描きたい所を一人1枚絵にしていった。そこから、「北野八景」として、8枚の葉書を選び、学校からの援助をもらうことができ、絵葉書として全校に配られることになった。自分たちの描いた絵葉書に、子供たちは各自、思い思いの人に喜んで手紙を書くことができた。



## 3 まとめ

今回のこの実践で、子供たちは、北野がどういう町であるか、特長をつかむことができた。また、自分が今育っている所でもあり、絵葉書を描き、手紙を書くことでより愛着が増したようだった。

しかし、課題設定がうまくいかなかった。その原因として、マップ作りは、一つのまとめの手立てであっても調べる方法ではない。教師の願いが強く、教師主導になりすぎたためだった。もっと子供の問題意識や手立てを自分の力で考え付いたように学習を仕組むことを大切にすべきであった。調べてまとめる段階では、自主的に個々に調べを進められた子が多くいたことが良かった。発表は、2回したが、同じ内容での発表ばかりではなかったのが、難しくなってしまいう面もあった。学習の意識を連続させた学習計画が大切であったことを痛感した。